

騒音測定 ～騒音の読み取り方～

特定工場及び特定建設作業における騒音は、発生の仕方により適切なデータ整理を行う必要があります。

特定工場等

JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」による方法

① 定常騒音

騒音計の指示値が変動せず、または変動が少ない場合は、その指示値とする。

② 間欠騒音

周期的、または間欠的に変動し、その指示値の最大値がおおむね一定の場合は、その変動ごとの指示値の最大値の算術平均値とする。

③ 間欠騒音（変動型）

周期的、または間欠的に変動し、その指示値の最大値が一定でない場合は、その変動ごとの指示値の最大値の90%レンジの上端値とする。

④ 変動騒音（不規則かつ大幅変動）

特定建設作業

騒音規制法では方法は明記されてませんので、一般的な方法を示します。

① 定常騒音

- ・発生騒音が定常的な場合(変動幅が1dB以内)はその指示値を算術平均値で評価
- ・変動幅が3dB以内と小さい場合は目視上の平均値あるいは指示値を10個程度読み取り、算術平均値で評価

② 衝撃騒音・間欠騒音（くい打ち機・ブルドーザー等による騒音）：最大値が一定

- ・騒音レベルの最大値が一定ならば、その最大値の算術平均値で評価

③ 衝撃騒音・間欠騒音（くい打ち機・ブルドーザー等による騒音）：最大値が一定でない

- ・騒音レベルの最大値が一定でないならば、その最大値を多数読み取り、時間率騒音レベル L_5 で評価

なお、読み取り個数が20個未満の少ない場合は、 L_5 の信頼性が低くなるので、指示値のパワー平均値で評価することもある。

④ 変動騒音（複数作業時における発生形態）

- ・一定の時間間隔で多数の指示値を読み取り、時間率騒音レベル L_5 で評価

出典：第2版環境測定実務者のための騒音レベル測定マニュアル

騒音測定及び振動測定に関するご質問ならびにご相談は経験豊富な日鉄テクノロジー(株)広畑事業所へ！